

令和7年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名: 大隅地域振興局農政普及課

課題名⑤ 産地を担う肉用牛新規就農者の支援						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	6	1			
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	6	1			
活動体制・活動 方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	4	3			
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	5	2			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4	3			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	5	2			
活動の 波及性 と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	3	4			
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	4	3			
全体的な意見・提言等		・担い手が少なくなっているなか、やめる農家の事業承継も含めて活動してほしい。 ・新規就農者の頼りになる普及の本来の在り方であると感じた。				

令和7年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 大隅地域振興局農政普及課

課題名⑤ 産地を担う肉用牛新規就農者の支援						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	7			新規就農者への5年目までの技術支援は大変重要	
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者, 地区)の選定は適切であるか	7				
活動体制・ 活動方法	③関係機関と連携して活動しているか	6	1		JA等との連携がとれていることがよい。	
	④活動(活動方法, 時期, 手段)は適切であるか	6	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	7				
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	5	2			
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	5	2			
活動の 波及性 と改善	⑧他の課題や他農業者, 地域への波及性があるか	4	3		更に管内新規就農者に対応してもらいたい。	
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	5	2			
全体的な意見・提言等		・新規肉用牛農家において厳しい状況が続いているので、産地を守る上でも、継続した支援をお願いしたい。 ・血統構成(肝属地域の管内種雄牛や管外種雄牛)によって、子牛セリ市出荷時の体重や価格を調査研究したら、農家への素牛候補の参考になるのではないかと。				



産地を担う 肉用牛新規就農者 の支援

農政普及課
畜産普及係
川瀬 弘毅

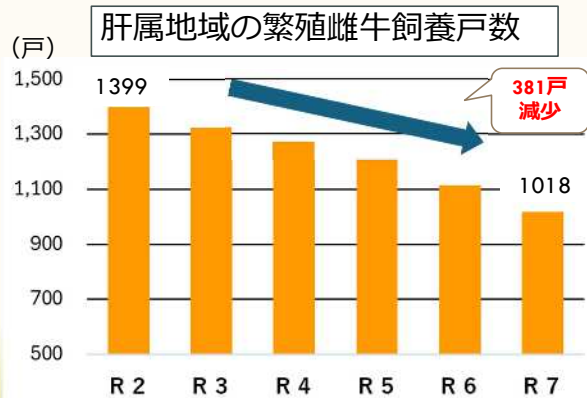
本日の発表内容

- 課題の背景と目的
- 地域の支援体制づくり
- 取り組んだ内容
- 活動の成果
- 今後の取組
- 地域の課題

1

課題の背景と目的

肝属地域の現状と課題



高齢農家の経営中止
等により、繁殖雌牛
飼養戸数が年々減少

担い手不足が深刻

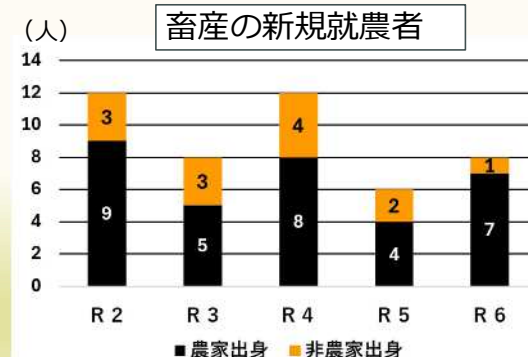
生産基盤維持のため
新規就農者確保と早期経営安定が必要

2

課題の背景と目的

新規就農者の状況

新規就農者数	R2	R3	R4	R5	R6
肝属管内	21	26	33	30	22
内畜産・肉用牛	12	8	12	6	8



就農希望者の
多様化

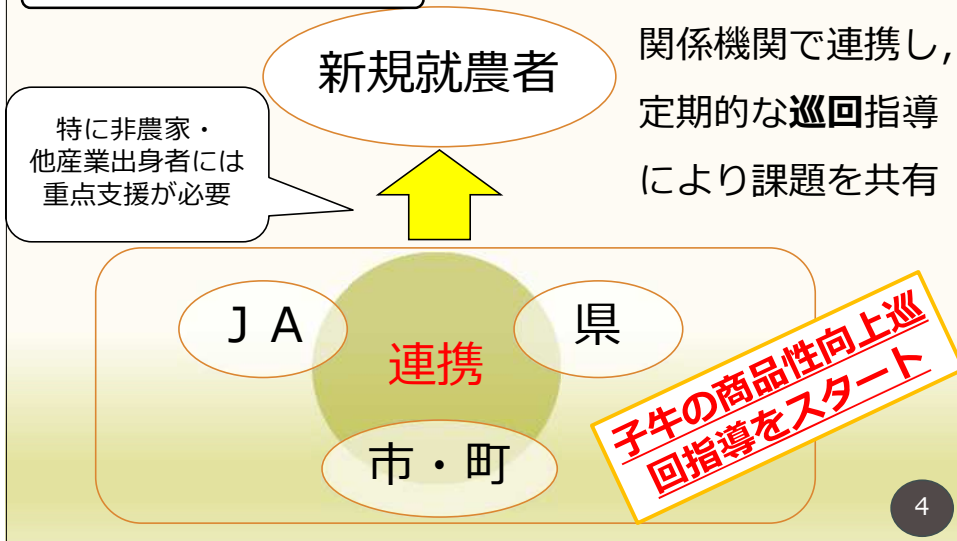
非農家出身者や
他産業出身者が
一定数いる

基本技術習得
が必要

3

地域の支援体制づくり

基本技術習得の対策



地域の支援体制づくり

対象：鹿屋市吾平地区の新規就農 A 農家

体制：鹿屋市吾平総合支所，J A 肝付吾平町，大隅地域振興局農政普及課

期間：令和 5 年 4 月から毎月実施

内容：以下を支援

- ① 経営計画の検討
- ② 子牛の全頭体測
- ③ 子牛の環境管理の徹底
- ④ 子牛の飼料給与の工夫
- ⑤ 繁殖成績の検討



巡回指導の実施

5

地域の支援体制づくり

肉用牛繁殖経営 A 農家の経営状況等

<R7経営概況等>

就農：令和 4 年 5 月
年齢：29 歳
家族：妻，子（2 人）
経営：繁殖牛 25 頭
育成牛 2 頭
労働力：1 人（本人）

<課題等>

- ・他産業からの就農
→ 相談者がいない
- ・家計費が大きい
→ 早期の経営確立が必要
- ・就農時に大きな借入あり
（牛舎，繁殖牛，機械等）

子牛育成基本技術の習得が必要

目標 技術定着，早期経営安定

6

取り組んだ内容

① 経営計画の検討 ～ 就農前の支援 ～

<取り上げた理由>

早期に経営を安定させる必要

- ・牛舎・農業機械・繁殖素牛等所有なし
- ・知識・技術の不足

<支援内容>

- ・青年等就農資金の活用
- ・20頭規模の無理のない頭数の導入
- ・適切な管理を行い商品性の高い子牛生産

7

取り組んだ内容

② 子牛の全頭体測

＜取り上げた理由＞

- ・子牛の状況を正しく把握する必要

＜支援内容＞

- ・経営内のすべての子牛
- ・毎月
- ・体高，胸囲，腹囲等を測定

→発育の標準値との比較

関係機関全員が同じ水準で指導



8

取り組んだ内容

③ 子牛の環境管理の徹底

＜取り上げた理由＞

ストレス排除

- ・子牛の環境を適切にする必要

＜支援内容＞

- ・暑熱，寒冷対策
夏場の飼料給与の時間を固定
冬場は床の敷料を倍以上に
- ・衛生対策
サシバ工対策のネット設置

指導後の対応

- ・繁忙期の自給飼料収穫時期も指導事項を実施
- ・夏場は3日に1回の薬剤噴霧消毒実施

9

取り組んだ内容

④ 子牛の飼料給与の工夫

＜取り上げた理由＞

♂，♀の双子

- ・同じ牛房内で生育に個体差
→めすがエサを喰い負けしている



＜支援内容＞

- ・別にめすの給餌の時間をつくることを提案

指導後の対応

- ・指導事項実施以外に子牛セリ時に子牛育成飼料給与マニュアルの確認
- ・草種変更時には重量を計測

10

取り組んだ内容

⑤ 繁殖成績の検討

繁殖図を使用し検討

＜取り上げた理由＞

- ・適切な母牛の繁殖管理の必要

＜支援内容＞

- ・分娩日から発情の有無，種付け日，種付け回数，種雄牛について聞取り
- ・添加剤や青草給与の検討

受精卵移植の試行

R6は3頭の不受胎牛について毎月検討を繰り返し，更新の判断や時期を指導

11

活動の成果

① 子牛の効率的増体

性別	年	出荷頭数	平均出荷日令	平均体重	kg/日
めす	R5	7	278	260	0.94
	R6	11	279	276	0.99
	R7	10	274	291	1.07
去勢	R5	5	275	301	1.10
	R6	7	267	310	1.16
	R7	13	257	320	1.25



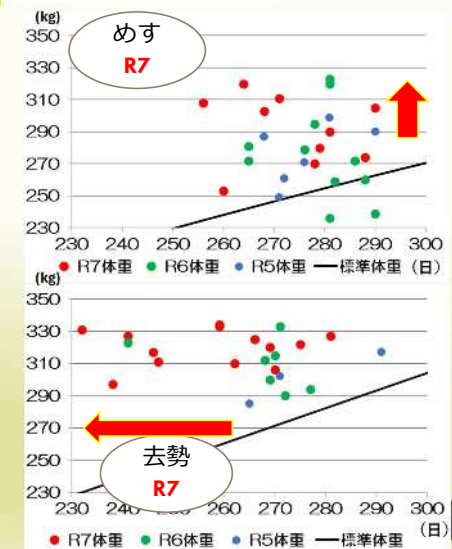
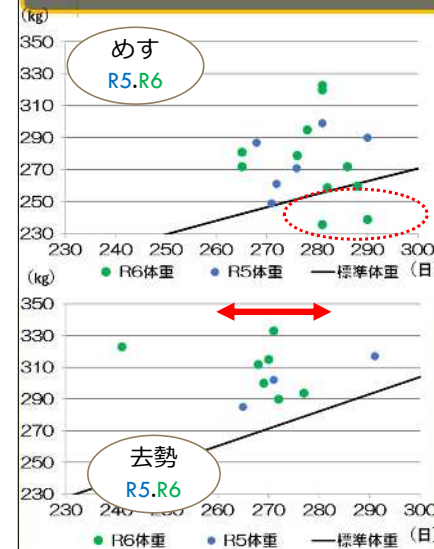
- 出荷日齢 (R5比)
めす 4日
去勢 17日の短縮
- (日齢体重) (R5比)
めす 0.11kg
去勢 0.15kgの上昇

12

活動の成果

① 子牛の効率的増体

体重・日齢 (kg/日)



13

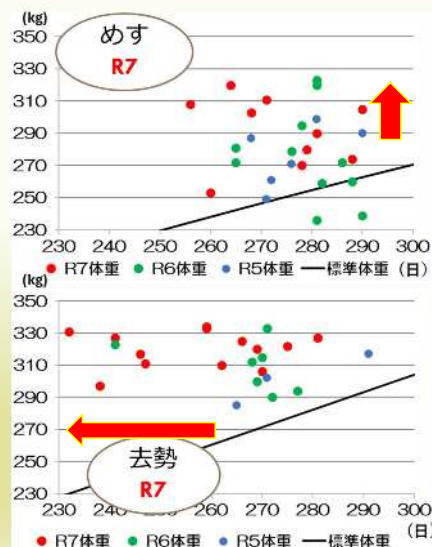
活動の成果

① 子牛の効率的増体

めす 出荷体重
R 7は全てが
平均以上

去勢 出荷時期
R 7は早期出荷の
頭数増

早期出荷のメリット
・ 飼料費の削減
・ 回転率の向上



14

活動の成果

② 分娩間隔の短縮

	R6	R7	差異
分娩間隔 (日)	389	374	▲ 15
分娩間隔頭数 (頭)	15	20	5

※畜産協会肉用牛支援システム

3頭の不受胎牛について

- ・ 1頭を廃用
- ・ 2頭は受胎(R7.5, R7.8)

以降は不受胎牛なし



15

活動の成果

③ 子牛出荷成績の向上

(頭)				(千円)			
出荷頭数	R5	R6	R7	平均販売価格(税抜き)	R5	R6	R7
めす	7	11	10		405	467	595
去勢	5	7	13	めす 市場平均価格	428	426	522
計	12	18	23	市場価格比(%)	95	111	109
				去勢 市場平均価格	661	552	719
				市場価格比(%)	115	105	107



肝属秋季畜産共進会
若雌1区
県共進会へ

県共進会
若雌1区
最優秀賞

16

成果のまとめ

- ① 子牛の効率的増体
→飼料費の節減になった
- ② 分娩間隔の短縮
→出荷頭数の増加が見込めるようになった

A農家が基本飼養技術を習得し、牛の適正管理ができるようになった

- ③ 子牛出荷成績の向上
→子牛販売の収入が増加した

17

今後の取組

<A農家について>

- ① 現在の飼養管理を継続
→相場に左右されない経営基盤の構築
- ② 規模拡大の検討
→・家族経営の確立のため増頭を計画
・牛舎増設、繁殖雌牛の導入の検討が必要

18

地域の課題

<地域について>

- ・巡回指導による新規就農者への技術向上指導の継続・拡大
- ・改訂子牛育成飼料給与マニュアルの波及による飼養管理技術の向上

19